

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	立ち上げ時よりスタッフと話し合い、意識を統一させ、理念をつくあげている。 第二の我が家」のホーム 生きがいのある」ホーム 開かれた」ホーム 家族とひとつになれる」ホーム		継続的に見直し、画餅にならないようにしたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に見える場所に理念を掲示し、各自確認できるようにしている。又、職員の名前札の裏にも理念をプリントしたものを入れ、日頃より理念を意識して介護にあたっている。そして、入職時の研修や職員会議の時には全体で理念の再確認をしている。		継続的に実施
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の場をかりて、理念について話をしている。又、家族には、契約時に説明をし、同意を得ている。		継続的に実施
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設前の道路は通勤、通学路、散歩コースとして徒歩で利用される方が多く、バルコニーからなどスタッフや入居者と積極的に挨拶を行っている。又、散歩途中の休憩の場としても気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。		継続的に実施
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のいきいきデイサービスの方々を招いて、一緒に行事に取り組んだり ボランティアによる慰問で唄や踊り 寸劇などご披露頂いたり 地域で行われる催しへの見学参加を行っている。		継続的に実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	共同で使用しているゴミ集荷場の清掃に取り組んでいる。 又、地域の散歩時のゴミ拾いの励行		認知症に関する勉強会の開催など、要請があれば受けるようにしている。 社会福祉協議会、在宅介護の会議等の要請により、社会資源の紹介として認知症の施設やケアの研修会を行っている。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	院内勉強会にて外部評価の意義を学び、法人内にて担当を決め、定期的に日々の業務をチェックし、毎日に活かしているように管理し、改善の意識を持っている。		改善意識の維持、継続
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を作成し、常時閲覧できるように管理し、情報の共有を図りながら、サービスの向上に活かせるようにしている。又、サービスの実際については、日々のビデオ、行事見学等を見て頂くことにより、生に近い状況を知って頂き、話し合いを内容の濃いものになるよう努力を行っている。		継続的に実施
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域担当者（筑後市校区福祉会連絡協議会、民生委員）の方などに施設内の行事に参加してもらっている。 定期的な相談員の訪問を受け入れている。		継続的に実施
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会や研修会及び外部研修会に参加をしている。又、法人内に情報を載せた配布資料を常備している。		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、それぞれの必要性について関係者と話し合い、必要に応じ活用できるように支援していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会などを行い、高齢者虐待防止に努めている。 又、職員の聞き取りや定期的なアンケート(無記名)虐待チェックリストの活用を実施している。		継続的に実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。又、不明な点などは常時相談に応じている。又、契約前の事前説明を十分に行っている。		継続的に実施
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満、苦情においてすぐ対応できるように関わっている。又、苦情報告書にて、全職員に周知し共有を図っている。苦情報告書等は運営推進会議にて報告を行っている。		継続的に実施
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議や家族会、家族の面会時に報告をしている。又、月1回、個別に近況報告や状態などを文章で報告している。健康状態の変化は随時家族に連絡し、金銭管理は複数の職員により管理、確認を行っている。又、職員異動は毎月の「新聞」にて報告を行う		継続的に実施
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱の設置を行っている。不満、苦情にすぐ対応できるよう対策を考え、苦情報告書にて全職員に周知し、共有を図っている。又、運営推進会議での情報共有化を実施している。		継続的に実施
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別面談を行っている。又、毎月アンケート用紙を配布し、職員の意見を取り入れている。又、不満、苦情についても無記名記入も可能とし、一人ひとりの真の声を聞けるよう努力している。		継続的に実施
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフト表にて管理者、現場責任者、運営者等の勤務日を調整し対応している。		継続的に実施
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職については本人の意思、利用者への関係等を配慮し、決定、時期を考慮している。		継続的に実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>配置の希望や資格取得、各種勉強会への参加等を支援している。又、有給休暇の取得促進を行っている。採用にあたっては、本人の意欲を尊重し、面接を行っている。採用時の排除項目はなし。配置の希望や資格取得、各種勉強会の参加等を支援している。</p>	<p>継続的に実施</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入職時研修や月1回の会議等で職員教育、研修を実施している。又、人権擁護の視点について、パンフレット使用等に随時指導を行っている。</p>	<p>継続的に実施</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現場での必要に応じた内容での研修会の定期的開催。認知症実践者研修の受講を多くの職員に促し、毎月目標を設定し取り組む。</p>	<p>継続的に実施</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行政が運営する地域サービスとの定期的交流会の実施、福岡県グループホーム協議会に加盟。同会の研修等の参加。又、筑後市グループホーム部会の研修会、職員間交流会への参加。</p>	<p>継続的に実施</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間の親睦会の開催。施設長による定期的個別面接の実施。無記名・記名の自由な投書箱の設置。</p>	<p>継続的に実施</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>職員ごとの評価表を作成しており、各自にその評価内容を伝え、改善への努力を共に行う。個々の能力、得意分野を生かす工夫を行う</p>	<p>継続的に実施</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>一人ひとりに合わせて対応している。又、管理者兼計画作成担当者が常に相談できる体制をつくっている。</p>	<p>継続的に実施</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者兼計画作成担当者にいつでも相談ができる体制をつくっている。又、家族会を定期的(2ヶ月に1度)に実施している。</p>	<p>継続的に実施</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>個々のケースに合わせ、医師、作業療法士、管理栄養士といった専門職により必要に応じてアドバイスを受けながら適切なサービスが何であるかを考え、対応している。</p>	<p>継続的に実施</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設のデイサービスをはじめ、当施設の独自事業である泊まり(ハッピーステイ)を利用するなど、導入を工夫し、個々のケースに合わせて行っている。又、本人、家族に納得頂くまで相談の場を設け、信頼関係構築に努めている。</p>	<p>継続的に実施</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>話を傾聴し、本人らしく生活を送れるように努めている。又、入居者の趣味や知識を取り入れたレクリエーションなども活動に取り入れている。 大工仕事、漬物作り、茶道等、入居者より職員が学べる場をつくり生活に取り入れている。</p>	<p>継続的に実施</p>

グループホーム ぶどうの樹

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にとり、介護に対する家族の悩みや不安に傾聴し、利用者本位のケアと一緒に取り組める環境づくりに努めている。又、誕生会や外出行事等に積極的に家族に参加して頂いている。		継続的に実施
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人と家族の関係が良好に保てるよう、家族との外出、外泊、行事への家族参加を促進している。又、再会の機会を確保できるよう、家族への協力を求め、家族の関係が切れないよう努めている。 介護記録等を読んで頂き、毎日の生活について会話ができるよう家族に協力を求めている。		継続的に実施
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	事前の情報収集に努め、馴染みの場所への外出などに努めている。家族以外の親類、知人などの面会を大いに受け入れられている。		継続的に実施
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	共有スペースをつくり、交流がもてるようにしている。孤立している入居者はなく、自由な感情表現の中で関わり合い、支え合い生活している。		継続的に実施
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする個々のケースに応じた対応をし、連絡を取るなど関係をつないでいる。		継続的に実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>計画作成担当者及び担当職員をはじめ、栄養士、全職員で本人の意向等を聞き出し、担当者会議やカンファレンスなどの場で情報を共有し、入居者本位を検討、実践できるように努めている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に家族からの聞き取りを始め、馴染みの品の持ち込み等、在宅中の担当介護支援専門員や主治医等からの情報収集に努めている。</p>	継続的に実施
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日のプログラムについて個別に作成、評価を行っている。</p>	<p>内的因子と外的因子、環境因子などの定期的評価により、深い総合的把握に努めていきたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時、認定更新時及び関係者から要請があった場合に担当者会議を開催するとともに、カンファレンスで入居者様の介護計画の見直しを行っている。</p>	継続的に実施
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個々の期間に応じ見直しをしている。又、状態変化が生じた際には、主治医、家族を含め担当者会議を開催している。</p>	継続的に実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に記録し、職員間での共有を図り介護計画に反映している。		継続的に実施
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法律等で禁じられていないことについて、当事業所で可能な限り柔軟な対応に努めている。		継続的に実施
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア慰問を積極的に受け入れている。年2回の防火避難訓練では、消防立ち会いの下、実施を計画。筑後市徘徊SOSネットワークに加盟。		継続的に実施
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個々のケースに合わせ、医師、作業療法士、管理栄養士といった専門職により必要に応じてアドバイスを受けながら適切なサービスが何であるかを考え、対応している。他のGHや地域介護支援専門員等と空き状況などの情報交換を行っている。又、介護保険施設、有料老人ホーム、在宅サービス等についての情報も提供している。		継続的に実施
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護をはじめ、ケアマネジメント等について積極的に相談していきたい。運営推進会議にも毎回参加頂いており、問題事例などについて随時相談をしている。		継続的に実施
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は家族、本人に決めて頂いている。又、緊急時の対応方法等を含め、担当者会議開催時には主治医の参加を求めている。医療連携体制に基づく日常的な健康管理を実施している。		継続的に実施

グループホーム ぶどうの樹

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員が気軽に相談できる居宅療養管理指導を実施しており、主治医と良好な関係を築いている。		家族、入居者様へ専門医の情報提供等ができるよう、事業所としての情報収集に努めていきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携担当看護師が日々訪問し、入居者との関係を築きながら個々の状態、把握を行っている。又、毎日、主治医へ健康状態を報告し、必要時には主治医より指示を頂いている。主治医とは24時間連絡が取れる体制となっている。		継続的に実施
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携を図っている。又、病院関係者とは情報交換をしながら早期退院に努めている。		継続的に実施
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族との打ち合わせを実施している。又、担当者会議時等に話をしていく。職員間での看取りに関する指針の周知に努めている。		継続的に実施
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りの指針を作成し、家族に説明をし、同意を得ている。又、主治医を含めた担当者会議等の場で、家族の意向や利用者の意向の聞き取りを行っている。		継続的に実施
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	主治医の意見等も含み、医療ソーシャルワーカーや介護支援専門員との連携、家族との面会も重ね、打ち合わせ等を個別に行っている。		継続的に実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いには気をつけ、記録物は鍵のかかる場所にて保管している。</p>	<p>継続的に実施</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己決定しやすいような問いかけや思いを伝えやすいよう個人に合った声掛けを心がけた雰囲気(環境)づくりを行っている。</p>	<p>継続的に実施</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の行動や生理的欲求を制限しないよう希望に沿って支援している。</p>	<p>継続的に実施</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きつけのお店など希望の店がある場合は、家族、本人の意向を優先し、外出にて理美容サービスを受けれるよう支援している。又、二つの事業所より理美容サービスを取り入れ選択できるように配慮している。</p>	<p>継続的に実施</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備から片付けまで入居者と一緒に行っている。又、職員も入居者の間に入り雰囲気の良い食事時間を過ごしている。</p>	<p>継続的に実施</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在、飲酒、喫煙をされる人はいない。飲み物は状態に合わせてたり希望に応じて提供している。</p>	<p>お酒などは記念行事などで提供していきたい。</p>

グループホーム ぶどうの樹

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、個々のパターンに合ったトイレ誘導を行っている。又、プライバシーの保持できる空間での排泄を心掛けている。		プライバシーの保持できる排泄を徹底できるように努めていきたい。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理な入浴は行わず、本人の希望を優先している。又、失禁や皮膚の状態によって、入浴の有無を判断し、適応している。		継続的に実施
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の訴え等も考慮し、安眠の場を提供し、眠れるように支援している。		継続的に実施
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前に家族等から生活歴などの情報収集を行い、日常生活を過ごされる中で、役割などを見つけ、支援している。		継続的に実施
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣いを預かり、本人の希望を考慮し、入居者の力に応じて所持し、使用できるように支援している。		継続的に実施
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に対応している。		継続的に実施
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事への参加で外出の機会をつくっている。又、家族との外出や外泊も支援している。		継続的に実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族へ出したり父の日、母の日など、家族から手紙を書いて頂いている。		継続的に実施
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日頃から挨拶や声掛けを行い、誰でも気軽に来訪しやすいような環境をつくっている。		入居者自身がお茶をお出りするなどのおもてなしへの取り組みを図り、入居者様の意欲向上へもつなげていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束をしないケアについて共通意識がもてるように勉強会を行っている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		継続的に実施
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行っていない。		継続的に実施
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者の行動や所在を把握し、個々にあった見守り、支援を行い、状態、把握に努めている。		継続的に実施
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決め、取り組みをしている。また、居室内の物に関しては、本人の状態に応じて、家族と相談して移動したり持ち帰って頂いたりしている。		継続的に実施
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や、予防について話し合う機会を設けたり、事故が発生した場合には再発防止について協議し、周知徹底している。		継続的に実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。AEDの取り扱いをはじめ、勉強会などで取り入れている。		定期(毎月)訓練を実施し、対応が身につくように取り組んでいきたい。(てんかん・ひきつけ等の処置対応)
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	月1回の点検や自主訓練を実施している。運営推進会議時等に地域代表者などに協力をお願いしている。		消防署立ち会いの避難訓練の実施。また、避難訓練時には近隣にも参加案内を行い、地域協力のもと、災害対策に取り組んでいきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に説明を行っている。		継続的に実施
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い、医療連携看護師、主治医に速やかに報告し、職員間でも業務日誌の申し送りにて情報を共有している。		継続的に実施
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解し、症状の変化の確認を行っている。又、主治医や医療連携看護師に状態変化を報告し、連携を図っている。		継続的に実施
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	健康体操など、適度な運動や入浴中のマッサージの取り組みを行っている。又、こまめに水分補給を促したり、栄養士や医療連携担当看護師の指導の下、整腸作用のある飲食物を活用し、便秘改善、予防に努めている。		便秘体操も習慣として取り組んでいきたい。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。又、歯科医による往診時には、ケアにおけるアドバイスなどをもらうとともに、勉強会を開くなどして口腔ケアに取り組んでいる。		継続的に実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、医療連携看護師による管理・個別の指導のもと主治医と連携を取りながら、適切な支援を行っている。		継続的に実施
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策のマニュアルを作成しており、勉強会などでも取り入れている。		継続的に実施
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士による管理・指導の下、日々食中毒予防に努めている。又、全職員の定期的な検便検査を実施している。		継続的に実施
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周りに花(プランター)を置くなどしている。季節に応じた飾り等美感と話題づくりに努力している。		季節に応じイルミネーションなどを飾って、親しめるように工夫したい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事などを取り入れた飾りや、季節の花を飾るなどの環境づくりに取り組んでいる。		継続的に実施
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外にソファを設置したり、カウンターにも椅子を配置し、共有スペースの中でも居場所が選択できるようにしている。又、共有スペースに隣接してバルコニーもあり自由に行き来ができる。		継続的に実施

グループホーム ぶどうの樹

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の道具は全て持ち込みとしており、日常生活用品等も自由にしている。又、居室内の環境づくりは、馴染みと安全面を考慮しながら、本人、家族と相談し行っている。		継続的に実施
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓を開け、空気の入替えを実施。終日、状況に応じて冷暖房を利用し、ホーム内、居室の温度調整等を行い適度な環境づくりに努めている。		継続的に実施
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、廊下や浴室、トイレ、他ホーム内に手すり設置、オープンキッチン等、環境を整備している。		継続的に実施
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々のレベルに合った支援を心掛け、出来る限り自立できるよう間接的援助に努めている。		継続的に実施
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	天気が良い日にはバルコニーに出て日光浴や体操をしたり、食事やお茶会などを行っている。又、畑づくり、野菜や花などの園芸活動にも取り組んでいる。		継続的に実施

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ぶどうの樹

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

GHぶどうの樹では、母体である医療法人の支援のもとに、自宅復帰を目標の1つに掲げ、認知症周辺症状の緩和（公文学習療法、動物介在療法等）や身体機能維持・向上訓練（作業療法士による指導）を積極的に行っています。また、大きな柱である「笑顔のある豊かな生活」を念頭に、入居者様一人ひとりに合わせたケアで楽しく、ゆっくりとその人らしい時を過ごして頂けるよう取り組んでいます。地域密着サービスとして、地域との繋がりを大切に、透明性の高い運営を心掛けています。